

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	175300359		
法人名	株式会社 きんべい		
事業所名	グループホーム はな斜里		
所在地	北海道斜里郡斜里町字豊倉50番地		
自己評価作成日	平成29年1月21日	評価結果市町村受理日	評価機関 記入

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	asaku.jp/01/index.php?action=kouhvu_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0175300359-00&PrefCd
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	平成29年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『家庭的な安心できる環境の中で、その人らしい尊厳のあるケアを約束します』という理念のもと、入居者様一人ひとりが、共同生活の中ではありますが、それぞれの思いを大切に、お互いに助け合いながら、職員や他入居者様と家族のような関係を築いていけるように、またここが居場所だと思えるよう、安心して生活できるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念に基づき、家庭的な雰囲気、利用者がホームを我が家と感じ、自分らしい暮らしを地域で続けていけるよう、質の高いサービスを提供することを心がけています。職員は利用者を家族のように思い安心した暮らしが送れるようと考え、家族のように接して言葉をかけたり、表情や動作を見て気持ちを察知し、やりたいことをできるだけ叶えられるように努めています。事業所では食事大切に考え、職員に利用者と同じものを食わせて、味付けや個々の健康・口腔状況などを把握し易い環境を作り、利用者の改善に繋がっています。また、食料も事業所で作っている新鮮な野菜や地元のならでの食材などを活用し、新鮮で馴染みのある食事内容となっています。職員は、管理者の意図を汲んで、忙しいときでも心に余裕を持って笑顔で利用者に接しています。事業所では課題を年4回ほど出しながら、職員の考えを把握し、利用者のサービス向上となるように指導を行っています。地域の自治会は防災意識が高く、相互の防災訓練に参加し常に繋がりを保って交流を図っています。また、災害が生じた場合の体制として、災害時近隣住民協力者を得ています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスが始まる前につくられた理念であるが、結果として、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念となっており、事業所運営の指針として管理者及び職員は実践につなげており、勉強会、ミーティング等で再確認している。また、新人研修にて理念の理解ができ実践できるよう努めている。	開設当初に作成した理念「家庭的な安心出来る環境の中で、その人らしい尊厳のあるケアを約束します」を掲げ、事業所全体で取り組んでいます。職員は常に利用者が笑顔で楽しく生活できるように心がけ支援しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所自体が自治会に所属している為、自治会の方も交えて防災訓練をホームで行ったり、自治会の防災訓練にも参加している。また自治会の花壇の手入れや、ホームの花植えを自治会の方と共にしたり、日常的に地域の一員として交流している	買物や散歩などに出かけて地域との交流を深めています。災害時近隣住民協力者の協力を得ており、事業所の花壇や畑の整備や夏祭りなどの行事に参加し交流を行っています。また、地域の子供たちとハロウィーンで交流し、利用者の楽しみとなっています。高校生のインターシップの受け入れています。	地域住民へ認知症の理解を広げるよう、地域の認知症の拠点となるような取り組みを期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者とともに自治会の花植えや防災訓練に参加したり、事業所で行っている活動等を知ってもらい、認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居者の活動状況・ヒヤリハットの報告や対外的な評価への状況について報告及び意見交換等を行い、サービスの向上に活かしている	定期的開催され、災害時近隣住民協力者、自治会元女性部長、病院のソーシャルワーカーなどの多彩な運営推進員で構成され、地域の協力体制が構築されています。事業所からの報告だけにとどまらず、グループホームの仕事やDVDで紹介したり、食事会を催すなど事業所への理解を深める努力をしています。	多くの家族が出席しやすい工夫などで運営推進会議の参加を促し、意見や要望を得てより適正な事業所運営が図られることを期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村主催のケア会議に定期的に出席したり、日常的にも情報交換やサービス提供についての相談を行ったり、日頃から協力関係を築くよう取り組んでいる	ケアマネージャが年4回市町村主催の介護連絡協議会に出席し、情報交換を行っています。行政の担当者には運営推進会議でも意見やアドバイスをいただきたき、良好な協力関係が築かれています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員は身体拘束等「指定地域密着型サービス指定基準及び指定密着型介護サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」をマニュアルや勉強会などを通じて理解し、取り組んでいる。夜間は防犯の為、ホームの玄関1カ所のみ施錠している。	事業所側で職員が正しく理解しているかを問うために身体拘束等の課題を出し、職員が個々に自分の考えを書面で提出しています。ミーティングや会議で事例を基に言葉による拘束や身体拘束等の弊害についてなどの話はしています。新人研修は、身体拘束をしないケアを含め利用者に対する接し方を中心に指導しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全ての職員は虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、職員間で情報交換を行い連携を図りながら事業所内等で虐待が見過ごされることがないように防止に努めている。また研修会にも参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全ての職員は権利擁護に関する制度について学ぶ機会を持ち、日々の生活のなかで感じた必要性を関係者と話し合い、導入の検討を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談に来られた時点から、本人及び家族等の話に耳を傾け、不安や疑問等を一つ一つ一緒に考え、利用について十分な説明を行い、理解や納得を得られるよう努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は各自話しやすい時間帯があるため、個々にあわせた時間にて、本人の話に傾聴し、家族等に関しては直接職員に言いにくいことなどの意見を吸い上げるため意見箱を設置するなど行い、意見・要望を社内外へ表せる機会を設けている	運営推進会議に食事会を開催しており、家族に利用者の状況をお伝えし、意見や要望を聞き取っています。また、要望や意見の中ですぐに改善できるものはミーティング等で職員と話し合い意向に沿うように努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に代表者や管理者は運営に関する意見や提案を聞く機会を設け、職員の意見をできる限り尊重し反映させている	代表者は年1回講和する機会があり、職員の意見を聴く場ともなっています。資格等については、休暇などの支援があります。職員の意見や要望は、ユニット会議や申し送り、日々の話などを通して行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者を含む全ての職員の努力や実績、勤務状況を把握し、定期昇給及び賞与等金銭面での張り合いや、負担増にならないシフトの構成・研修等への支援等、向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、全ての職員のケアの実際を把握し、一人ひとりの力量に応じ、内部では月1回の勉強会を行い、できる限り外部研修を受けられるように勤務を配慮したり、働きながら資質向上につながるよう努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、町内の介護事業所の集まりである斜里町高齢者介護事業所連絡協議会に参加し情報の交換を行っている。その中で研修会等の機会を作ったり、職員不足等の問題解決に取り組みながらサービスの向上に努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前より、本人宅へ訪問したり、来訪いただいたりしながら、関係を深め、本人が困っていること、不安なことなど要望等に耳を傾けながら、本人が安心できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前より複数回お話を伺う機会を設け、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現時点で困っていることなど話し合い、他のサービスのほうが良い支援に繋がると思われる場合、他事業所紹介も含め対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各入居者のできること・できないことを見極め、一緒に協力して家事をする等の日常生活をすることで、暮らしをともにする者同士の関係を築けるよう努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各家族、それぞれ事情があるので、負担に思わせないことを前提に、本人にとって何が大切かを話し合い、本人と家族の絆を大切にしながら、ともに本人を支えていく関係を築けるよう努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用していた美容室、図書館や、温泉、お店屋さんなど継続して利用したり、面会は時間など制限無く自由にできるように開放しており、入居前のご近所の方との関係が途切れないよう支援に努めている	外泊やお墓参りなどの外出の希望は、家族に伝えて対応しています。以前からの習慣を大切に美容室、図書館など継続して利用できるように支援しています。友人や知人が来訪した場合は、ゆったりとくつろげる様に配慮しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時々で人間関係が変化するので、状況に応じて入居者同士が関わり合い、お互いの出来ないことを手伝う等、支えあえるよう支援している。孤立しがちな入居者においては他入居者から本人へ声掛けがなされるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても、時折、来訪があったり、家族等より近況報告や差し入れがあったり、お互いの情報を交換している。 また関係の深かった入居者を連れて退居された先へ訪問しに行くなど、入居者同士の関係を断ち切らない取組みに努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に入居者の考え、意向の把握に努め、意思疎通が困難な状況でも本人の過去を知ることや、家族とも話し合いながら本人の思いへの理解に努めている	無理なく生活をしていただく中で、1人ひとりの表情や行動の変化を捉え、話を聴くことにより、楽しみや行いたいことを把握しています。また、本人本位に検討し、要望を安全に実現できるように支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び家族等並びに本人の暮らしていた地域の人々、サービス利用に際した関係者等お話を伺い、これまでの経過等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者それぞれ時間毎に記した記録物や大まかに時間を振り分けて記入する記録物等を用い、その日ごとの状況・状態が総合的に把握できるよう努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすために、定期的にミーティング時、また心身の状況が変わった時は課題分析を行い、本人や家族等必要な関係者と話し合いを行いながら、現状に即した介護計画の作成に努めている	カンファレンスで、利用者・家族・医師・看護師の意見を聴き、定期的にケアマネジャー・管理者を中心に介護計画が作成されています。変化があればその都度、家族の了承の基で行っています。	日々の利用者の変化をカンファレンスしたり、利用者の要望を安全に遂行するためにも、職員会議を月1回開催することを期待しています。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各入居者それぞれのケア記録及び連絡ノート等を用い、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々本人や家族の状況を理解し、ホームとしてできることを考え、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前からを含む、一人ひとりを支えている人・場所等を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入居前からのかかりつけ医に継続で受診しており、それぞれのかかりつけ医と関係を築きながら、容態の変化等があった時にも適切な医療を受けられるよう支援している	希望するかかりつけ医への受診は家族対応になっていますが、家族が付き添って行けない場合は事業所が支援しています。看護師の職員による健康管理が行われています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師が、毎朝、各入居者の状況を介護職員から聞き取りや介護記録からの情報を踏まえて、全入居者の様態確認を行い、また身体状況に変化が生じた場合もすぐに連携し必要に応じ適切な受診や看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は、情報提供を行い、入居者に対して適切な支援が継続してなされるよう依頼するとともに、早期に退院できるように、病院関係者と情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、入居相談の時から、ホームの考え方を伝え、本人、家族等の意向や考え方を聞き取り、話し合いを行い方針を共有している。更に身体状況が変化した時に家族の思いを再確認している。また地域の関係者ととも、チームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については契約時に利用者、家族に説明し理解を得ています。看取りに関しては人員及び職員の資質、その他利用者の影響、医療機関との連携が整いすべてがクリアになれるよう取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得たり、定期的に急変や事故発生時に備えての応急手当等の訓練を行い、緊急時の連絡網を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会と協力し定期的な避難訓練を行っており、災害時マニュアルを作成し、火災や地震、水害等の災害時に昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに地域との協力体制を築いている	消防署立会いのもと地域住民などの協力を得、年2回避難訓練を実施しています。隣接の建物からの出火を想定し自治会と合同で避難訓練を行い、徒歩や利用者をリヤカーに乗せるなど避難場所までの訓練を行っています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの生活歴や人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けている	一人ひとりの人格を尊重し、細かな対応や言葉使いにも注意を払い、利用者の心に寄り添ったケアに努め、プライバシーの保護に取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人が思いや希望を表せるように日々、声かけや仕草などから本人の意向を読み取るように努め、状況に応じて選択肢をいくつか提案し、自己決定できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員から強制はせず、1日の過ごし方について、外出等の曜日、時間等決めておらず、随時対応としている。 ただし、個々の入居者が同じ時間に別々のことを希望される場合は、内容により優先順位をつけさせてもらい、対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者それぞれ馴染みの美容室を利用したり、歩行困難の方については来訪してもらっている。毎日着る服は自分で選んでいただいている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の食べられない物を把握し、代食を工夫したり、入居者の発言からメニューを決めたり、入居者それぞれの能力に応じて調理や盛り付け等入居者ともに行ったり、茶碗拭き等後片付けもともに行っている	買い物担当の職員が献立を作成し、利用者の好みを取り入れ職員と一緒に準備をし食卓を囲んでいます。家族からの野菜や魚などの差し入れもあり、季節を感じられる食事を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事及び水分量等記入するシートを設け、一日を通した摂取量の把握を行い、少ない時は摂取できるよう個々の嗜好や嚥下状態に合わせ工夫し、一口大に刻んだり、ミキサー食にする等し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者それぞれの能力に応じ、声掛けをしたり、出来ない人には手伝い、口腔状態に合わせた口腔ケアを行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者それぞれの排泄パターンを把握し、排泄の自立及び気持ちよく排泄できるよう支援を行っている。場合によっては定期的に声掛けやトイレに誘う等の支援を行っている。外出時や夜間のやむを得ない場合のみオムツやパットを使用している。	利用者の排泄パターンを把握し不安にならないようにさりげなく声掛け、誘導しトイレでの自立排泄に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者それぞれの便秘のパターンを理解し、身体への影響を鑑み、入居者それぞれに合わせた飲食物の工夫や運動への働きかけ等を行っている。また、必要に応じ、かかりつけ医に相談するなど、便秘予防に努めている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を週に二回としているが、それ以外の日でも入居者の希望に応じてシャワー浴や足浴、清拭などでもできるようにしている。時間帯は午前と午後に行っている為、希望の時間を伺い、できる限り入居者の希望に対応している。	利用者の希望に添った時間、気持ちを優先し入浴できるよう配慮しています。入浴拒否の場合は時間をかけ利用者の状態や気分を考えながら支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者それぞれ使い慣れた寝具で、それぞれの生活習慣に応じた休息や体調に合わせた休息のとり方、入眠の仕方をいただき、布団やシーツを清潔にし安心して気持ちよく眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの職員が入居者それぞれの病気や服薬内容を理解し覚えようと努力したり、新しく増えた薬などもその都度副作用等も調べ、理解に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした家事の役割や、食べたいおやつを共同作業で作ったり、好きな物を食べられる支援や、買い物・外出等の楽しみごと、気分転換等、支援を行っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のみなさんと協力しながら出かけられるように支援している	日常的に入居者が希望する買い物等に出掛けている。お祭りや温泉、果物狩りなど、非日常的なものに関しては、入居者とともにチラシ等で得た情報をもとに希望者を募って出かけたり、季節ごとの習慣など出かけられるようにしている	利用者の状態を考慮しながら買い物や散歩、ドライブ、足湯、家族との外出、個別に図書館に行くなど多岐にわたり外出し気分転換を図っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人ひとりの能力に応じた金銭管理を行っており、できる限り、お金を持たせ自分の力で買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	デイルームに公衆電話を設置し、自由に利用できるよになっている。また、耳の不自由な入居者等は代替で電話をかけたり、自分でかけられない場合はダイヤルだけ手伝い等支援をしている。また、手紙についても同様に各入居者の自由にしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常的に花を飾ったり、季節に応じた装飾を行ったりし、観葉植物を愛でたり、心地よく過ごせるよう配慮している。また、入居者それぞれの嗜好に応じた音楽をかけるなどし、普通の暮らしが営めるように努めている	利用者が多くの時間を過ごす居間兼食堂には季節ごとの飾り付や行事の写真が飾られています。趣味のマージャンや能トシ、借りてきた絵本を読んだりと思いいに過ごせるよう支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デイルームに何か所か座る場所を設け、ひとりになれる空間作りをしている。また、ソファで一緒に会話をする等、入居者それぞれ、思い思いに過ごせるよう努めている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	火気以外、持ち込み自由のため、入居者本人と家族とで自由に好みの使い慣れた物を持ち込み、家族の写真や飾り、馴染みの空間になるよう、本人が居心地良く過ごせるよう努めている	居室の前の入り口ボードには家族の同意のもと利用者の名前や写真などが貼られています。使い慣れた寝具やテレビ、家族の写真、ジュタンを敷きテーブルに座布団と自分らしく自宅と同じように居心地良く暮らせるようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常的に各入居者の認知力や歩行力等の変化を理解し、家事や日常生活等のできることは、その時々々の状態に合わせた見守りや介助、福祉用具等の利用で、安全でできるだけ自立した生活が過ごせるよう環境づくりを行っている		